※令和３年度以前入学生用

学校番号	T1202

令和５(2023)年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	日本史Ａ　現代からの歴史（東京書籍）						
副教材等	自作プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

近代までの歴史を大まかに学習し、その後江戸時代後期以降の近現代の歴史を学習します。外国との関わりの中で、現在の日本がどのようにして形成されたのかを詳しく見ていきます。

２　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題を、近現代史を中心とする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。
・日本の歴史を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、 国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する人間としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする日本の歴史を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	近現代史を中心とする日本の歴史についての基本的な事柄を理解し､その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	私たちの時代と歴史	・私たちと歴史の結びつき ・私たちの時代 ・開国までのあゆみ ・近代の幕開け	○ ○ ○ 	 ○	 	 ○ ○	a:身の回りの歴史的な出来事について感心を持っている。 b:近代までの日本の成り立ちについて考察しようとしている。 c:近代までの代表的な資料を読み取っている。 d:近代までの日本の成り立ちについて理解している。	ワークシート 定期考査
	近代日本の形成	・国際情勢の変化と明治維新 ・明治新政府の諸改革 ・立憲国家の成立	○ ○	 ○ 	○ ○	○ ○ 	a:開国や明治維新など、日本の体制変化について感心を持っている。 b:明治維新での日本の変化を考察しようとしている。 c:新政府に関する教科書の資料を読み取っている。 d: 開国や明治維新など、日本の体制変化について理解している。	ワークシート 定期考査
	東アジア世界の変動と日本	・日清戦争と近代社会の確立 ・日露戦争と帝国日本の形成	○ ○	 	 ○	○ 	a:日清・日露戦争前後の対外関係に関心を持っている。 b:日清・日露戦争前後の対外関係の変化を考察している。 c:対外関係に関する教科書の資料を読み取っている。 d:条約改正や日本の対外関係の変化について理解している。	ワークシート 定期考査
後期	二つの世界大戦と日本	・第一次世界大戦と帝国日本 ・政党政治の時代 ・軍国日本への道 ・太平洋戦争	○ ○ 	 ○	 ○ ○	○ ○ 	a:二つの世界大戦と、東アジアとの関係について感心を持っている。 b:二つの世界大戦と、その間の内外情勢の変化を考察している。 c:大戦期についての教科書の資料を読み取っている。 d: 二つの世界大戦と、内外情勢の変化について理解している。	ワークシート 定期考査

※令和３年度以前入学生用

	第二次世界大戦後の国際社会と日本	・現代世界の開幕と日本の戦後改革 ・高度経済成長の時代	○	○	○	○	a:戦後の復興について関心を持っている。 b:戦後の政治や対外関係について考察している。 c:新憲法や経済成長などについて、教科書の資料を読み取っている。 d:占領政策や日本の改革について理解している。	ワークシート 定期考査
後期	現代の世界と日本	・国際秩序のゆらぎと経済大国日本 ・冷戦の終焉と日本	○	○	○	○	a:戦後の国際関係について関心を持っている。 b:国際関係と国民生活の変化について考察している。 c:冷戦期前後の教科書の資料を読み取っている。 d:国際社会の中での日本の発展について理解している。	ワークシート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。